

Title	経営活動の数量かモデル開発のためのコンピュータプログラム作成 - 因果ネットワークモデルの構造化を中心として -
Sub Title	
Author	吉永桂一(Yoshinaga, Keiichi) 伏見多美雄
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1981
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001981-0179

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名 吉 永 桂 一

主査 伏 見 多美雄 教授

副査 柳 原 一 夫 助教授

柴 田 典 男 助教授

所属ゼミナール 柳 原 一 夫 研

経営活動の数量化モデル開発のためのコンピュータプログラム作成 (因果ネットワークモデルの構造化を中心として)

経営活動を全体的に把握するためのモデルとして、因果ネットワークモデルが提案されている。

本研究のテーマは、マネジメントの作成した因果ネットワークモデルを、数量化モデルに転換するプログラムを、開発することである。本プログラムは、① マネジメントのプログラム作成を助け、② データバンクを作成し、③ 蓄積されたデータによりモデルの検証を行ない、④ 各変数間の因果関係に、自動的に関数を付与することにより数量化し、⑤ それを利用して、予測及び分析情報を提供することを目的とした、マネジメントのための分析ツールである。

本プログラムの特徴は、データの蓄積、関数の設定、モデルの検証が不可分となっていることである。年々データが蓄積され、それにより関数が改善され、モデルの検証が繰返される。又、企業形態の変化、あるいは、モデル検証により矛盾が発見されるなど、モデル修正が必要な場合は容易に変更が可能であり、常に up to date のモデルとして使用できる。

関数関係の設定は、いくつかの関数を仮定し、蓄積されたデータに最も適合するものを選択する。適合する関数がない場合には回帰によって決められる。又、オプションでインプットすることも可能である。

ビジネスゲームのデータを使って、因果ネットワークモデルを作り、各機能のチェックを行なったが、ほぼ、所期の目的は達成された。しかし、本モデルは、元々理論モデルでなく、実証モデルであり、一つの例で有効性が証明されるものではない。実際の使用の中で不具合を発見し、バージョンアップを計っていかねばならない。